

中国語における動詞“給”が形成する“給”構文

張 仲 霏

1.0 はじめに

朱徳熙(1979:151)では、「“給”を動詞と前置詞を兼ねると分析することにより、多くの統語現象を比較的簡単に説明できる。ここでは、前置詞の“給”を取り除いて、動詞“給”で構成された三種の文型について論じる」と述べている。この考えは厳密に言えば不正確ではあるが、論文の基本的考えとして捕らえればよい。ここでは朱(1979)の厳密な分析の前にS1からS4の文型の基本的な統語的意味の説明をしておこう。さらに、S2とS3の関係、S3とS1の関係、S1とS4の関係についても論じておく。

朱(1979)によれば、“給”構文は以下の四類の文型に分けられる。

S1: Ms+D+給+M'+M (我送给他一本书)

S2: Ms+D+M+給+M' (我送一本书给他)

S3: Ms+給+M'+D+M (我给他写一封信)

S4: Ms+D+M'+M (我送他一本书)

それぞれの例の持つ意味を十分に解析するために、述語論理による表記を次に記す。なお論理式の上下の日本語は意味解釈の簡易表記である。

S1'

～ニ 送り ～ガ～ヲ アル ～ガ 一冊 到ル ガ ～ニ
 給' {我, 他, 送'(我, 书)&有'(书, 一本) &到'(一本, 他) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

S2'

オクル ～ガ ～ヲ アル ～ガ 一冊 到ル ～ガ ～ニ
送' (我, 书)& 有' (书, 一本) &到' (一本, 他)

S3'

～ニ カク ～ガ ～ヲ アル～ガ 一封 到ル ～ガ ～ニ
給' {我, 他, 写' (我, 信) &有' (信, 一封) &到' (一封, 他) }
スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

S4'

～ニ 送り ～ガ ～ヲ アル～ガ 一冊 到ル ガ ～ニ
GEI' {我, 他, 送' (我, 书) &有' (书, 一本) &到' (一本, 他) }
スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

朱 (1979 : 151) によれば、S1 から S4 における直接目的語 M は単独の名詞であるが、複雑な名詞性構造が直接目的語としてふさわしい。これらの文型に単独の名詞が直接目的語として使われる場合、もっと大きな文脈に使われないで、その文だけが単独で合理的な文に成ることは難しいと述べている。例えば、

- S1 : *我送给他书/我送给他一本书
*我借给他钱/我借给他五块钱
S2 : *你沏茶给我/你沏杯茶给我
*你打毛衣给我/你打件毛衣给我
S4 : *他送我糖/他送我一盒糖
*他卖我书/他卖我一批书

斜線の前の文が単独で言えないとは限らないが、より大きな文脈があれば、おさまりがよいと考えられる。例えば、

- S1 : 我送给他书 (看)
 我借给他钱 (使)
- S2 : 你沏茶给我 (喝)
 你打毛衣给我 (穿)
- S4 : 他送我糖 (, 我送他茶叶)
 他卖我书 (, 我卖他画儿)

朱は単独の名詞が直接目的語として使われる文が成り立ちにくいと考えるが、その理由を述べていない。われわれは朱の考えを評価するが、なぜこの現象がおこるかの理由を分析する必要があると思われる。次に、その理由を述べておこう。

S1 : *我送给他书/我送给他一本书

この文の意味を十分に解釈するために述語論理による表記をすると、次のようになる。

S1' *我送给他书

～ニ プレゼントスル ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
 给' {我, 他, 送' (我, 书)& 到' (书, 他) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“给’ { 我, 他, ……}”が「私は彼に何かをする」を、“送’(我, 书)& 到’(书, 他)”が「私が本をプレゼントする」と「本が彼に到る」を表している。命題“送’(我, 书)”と命題“到’(书, 他)”は連言関係にある。連言関係は、本来順序が自由である。しかし、「演繹モデル」においては順序が確定される。その「演繹モデル」とは、前の命題の第二項と次の命題の第一項の内容が同じである場合、その順に命題が配列されることを言う。これに基づき考えることにする。演繹モデルにおいて連言関係に

ある二つの命題の最初の命題の第二項と後ろの命題の第一項が同じ場合、この二つの間には「連鎖関係」がある。「連鎖関係」の特徴は後の命題の第一項が[確定性]を持つということである。この論理式では、関数“送”の第二項“書”と関数“到”の第一項“書”が同じであるので、連鎖関係があり、後の“書”には「確定性」があると考えられる。しかし、S1’の“我送给他书”の“書”は[確定性]ではなく、[不確定性]を持つ。この[不確定性]が論理式における連鎖関係の後の“書”の持つ特徴[確定性]と対立する。したがって、この文は成り立ちにくい。それに対し、次の文を述語論理で表記すると、

S1’’ 我送给他一本书

～ニ 送り ～ガ～ヲ アル ～ガ 一冊 到ル ガ ～ニ
 給’ {我, 他, 送’(我, 书)&有’ (书, 一本) &到’ (一本, 他) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

となる。

ここでは、“給’ { 我, 他, ……}”が「私は彼に何かをする」を、“送’(我, 书)&有’(书, 一本) &到’(一本, 他)”が「私が本をプレゼントする」と「本が一冊がある」と「一冊が彼に到る」を表している。“送’(我, 书) &有’(书, 一本) &到’(一本, 他)”は演繹モデルにおける連言関係を表している。この論理式では、関数“有”の第二項“一本”と関数“到”の第一項“一本”が同じであるので、連鎖関係があると考えられる。従って後の“一本”は「確定性」を持つ。一方、S1’’の“我送给他一本书”の“一本”は数量を明示しており、当然「確定性」を持ち、論理式の“到”関数の第一項の持つ「確定性」に一致するから、この文が成り立つのである。さらに次の文について考えよう。

S1’’’ 我送给他书(看)

スル～ガ ～タメニ ～コトヲ
シテヤル～ガ ～ニ ～コトヲ

となる。ここでは、“給’ [你, 我, ……]”が「あなたが私に何かをする」を、“喝’ (我, 茶)”が「私がお茶を飲む」を、“为’ {你, 喝’ (我, 茶), ……}”が「あなたは私がお茶を飲むために何かをする」を、“沏’ (你, 茶)”が「あなたがお茶を入れる」を表している。ここで“喝’”関数の第二項“茶”と“沏’”関数の第二項“茶”は同じであるが、連言関係にない。したがって連鎖関係を持たない。連鎖関係を持たないが“茶”はすでに“为’”関数の第二項に現れており、“沏’”関数に現れるのは二回目である。従って、後の“茶”には[確定性]という特徴がある。一方、S’の“茶”には数量限定はないが、言語直観による[確定性]があるので、この文はすわりがよくなる。

S4 : *他送我糖/他送我一盒糖

この二文を述語論理による表記をすると、次のS4’とS4’’になる。

S4’ *他送我糖

～ニ
給’ {他, 我, 送’ (他, 糖) &到’ (糖, 我) }
スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“给’ {他, 我, ……}”が「彼が私に何かをする」を、“送’ (他, 糖) &到’ (糖, 我)”が「彼が飴を送る」と「飴が私に到る」を表している。この論理式で“送’”関数の第二項“糖”と“到’”関数の第一項“糖”が同じであるので、連鎖関係があると考えられる。従って“到’”関数の第一項の“糖”は[確定性]である。しかし、S4’の“糖”は数量限定がないので[不確定性]である。この実際の文の持つ[不確定性]と論理式における連鎖関係の特徴[確定性]が対立している。したがって、この文はすわりが悪い。それに対し、次の文を述語論理で表記すると、

S4'' 他送我一盒糖

～ニ オクル～ガ～ヲ アル ～ガ 一箱 到ル ガ ～ニ
 給' {他, 我, 送' (他, 糖) & 有' (糖, 一盒) & 到' (一盒, 我) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

となる。ここでは、“給' { 他, 我, ……}”が「彼が私に何かをする」を、“送' (他, 糖) & 有' (糖, 一盒) & 到' (一盒, 我) ”が「彼が飴を送る」と「飴が一箱ある」と「一箱が私に到る」を表している。“送' (他, 糖) & 有' (糖, 一盒) & 到' (一盒, 我) ”は演繹モデルにおける連言関係である。この論理式では、“有' ”関数の第二項“一盒”と“到' ”関数の第一項“一盒”が同じであるので、連鎖関係があると考えられる。ここの論理式の後の“一盒”に [確定性] があり、S4'' の文の中の“一盒”の表す [確定性] に一致するから、この文が成り立つ。

S4''' 他送我糖, 我送他茶叶

この文を述語論理で表記すると、次のようになる。

～ニ
 給' {他, 我, 送' (他, 糖) & 到' (糖, 我) } &
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

～ニ
 給' {我, 他, 送' (我, 茶叶) & 到' (茶叶, 他) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここには二つの複合命題がある。一つの複合命題の“給' {他, 我, ……}”は「彼が私に何かをする」を、“送' (他, 糖) & 到' (糖, 我) ”は「彼が飴を送り」と「飴が私に到る」を表している。もう一つの複合命題の“給'

{我, 他, ……}は「私が彼に何かをする」を、“送’（我, 茶叶）&到’（茶叶, 他）”が「私がお茶を送る」と「お茶が彼に到る」を表している。ここでは前者の複合命題1における“送’”関数の第二項“糖”と“到’”関数の第一項“糖”が同じであり、後者の複合命題2における“送’”関数の第二項“茶叶”と“到’”関数の第一項“茶叶”が同じであるので、演繹モデルにおける連言関係にあり、したがって連鎖関係を持つと考えられる。連鎖関係を持てば[確定性]という特徴がある。しかしS4’の“糖”と“茶叶”には数量詞も指示詞もなく、したがって[不確定性]があり、論理式における連鎖関係で生じる[確定性]と対立する。ところが“糖”と“茶叶”は「数量」上は[確定性]がないが、「種類」上は二種類に限定される。したがって、種類においては二種という[確定性]があると言えるので、この文が成り立つ。

以上分析したのはS1、S2とS4の例文である。朱（1979：152）によれば、文型S3において直接目的語が単独の名詞であると、文における“給”は動詞ではなくて、前置詞であると述べる。例えば、次の文の“給”である。

我给他打毛衣（私は彼にかわってセーターを編む）

我给他沏茶（私はかれのかわりにお茶を入れる）

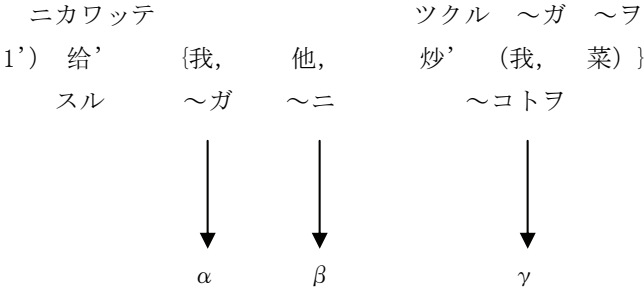
我给他买书（私は彼の代わりに本を買う）

我给他炒菜（私は彼に代わって料理する）

朱が「文型S3において直接目的語が単独の名詞であると、文における“給”は動詞ではなくて、前置詞である」と述べているが、その理由を述べてない。次にその理由を述べておこう。

1) 我给他炒菜

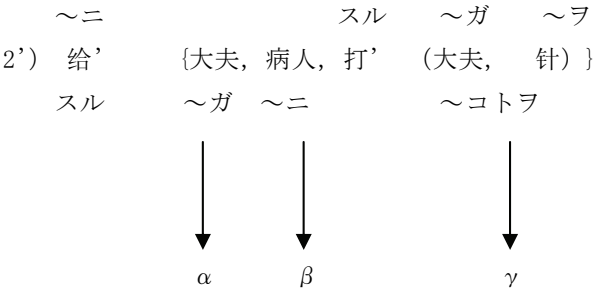
この文を述語論理で表記すると、次のようになる。



ここでは、“給’ {我, 他, ……}”が「私が彼に何かをする」を、“炒’ (我, 菜)”が「私が料理を作る」を表している。後の説明に便利のように、ここでは関数“給’”の第一項を“α”、第二項を“β”、第三項を“γ”とする。

2) 大夫给病人打针。

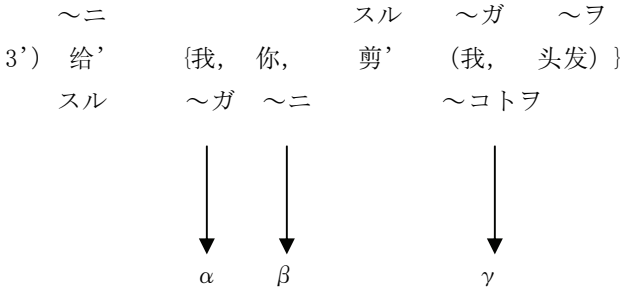
この文を述語論理で表記してみよう。



ここでは、“给’ {大夫, 病人, ……}”が「お医者さんが患者に何かをする」を、“打’ (大夫, 针)”が「お医者さんが注射をする」を表している。

3) 我给你剪头发。

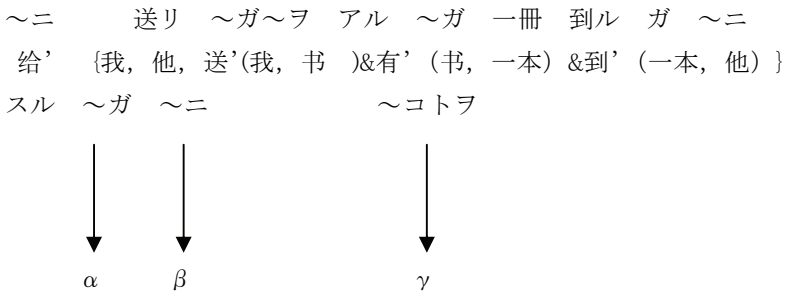
この文を述語論理で表記する。



ここでは、“給”{我， 你， ……}が「私があなたに何かをする」を、“剪”(我， 头发)が「私が髪の毛をカットする」を表している。

注意すべきことはこの三つの論理式における“β”の部分はずべて“γ”に出現しない。したがって、朱徳熙の結論にてらし合わせると、前置詞として使われた“給”はその構文における第二項が第三項に出現しないものであると考えられる。先に分析した S1、S2 と S4 における“給”は動詞であるので、論理式における“β”の部分はずべて“γ”に出現する。詳しく見てみよう。

S1') 我送给他一本书

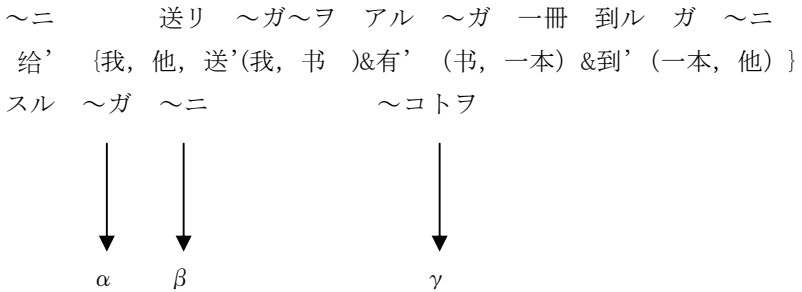


152)。朱は「授与」の定義を次のようにまとめた、

- (1) 「動作主」(A) と「与格」(B) が存在する。
- (2) 「動作主」(A) が与え、「与格」(B) が受け取る「対象物」(C) がある。
- (3) A は能動的に C を A から B に移転させる。

次に、この定義を論理式で十分に表現されているかどうかを考察する。まず、“我送给他一本书”を述語論理式で書くと、

S1’



となる。まず、

朱の定義の「(1) 「動作主」(A) と「与格」(B) が存在する。」を詳しく見ると、「動作主」(A) が“α”であり、「与格」(B) が“β”である。

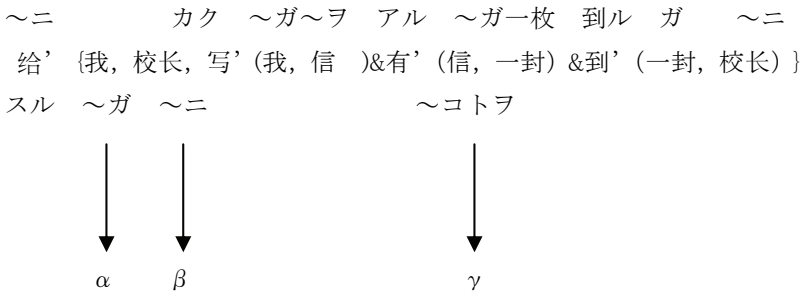
定義の「(2) 「動作主」(A) が与え、「与格」(B) が受け取る「対象物」(C) がある。」については『「動作主」(A) が与え』が関数“送’”の第一項の“我”である。『「与格」(B) が受け取る』が関数“到’”の第二項の“他”である。『「対象物」(C)』が関数“送’”の第二項の“书”である。

定義の「(3) A は能動的に C を A から B に移転させる。」については「能動的に」はこの論理式の「α が β に γ をする」ことである。「A から B に移転」は「関数“送’”の第一項の“我”から関数“到’”の第二項の“他”のところに移転する。」ことである。「させる」は関数“有’”の第二項の“一本”が関数“到’”の第一項のところに移転することである。つまり、「本”が私

のところから行く。」のである。ここでは連鎖関係が「させる」ことを表している。以上のことから見ると、朱の「授与」に関する定義は S1' で表した論理式に適合していることがわかる。もう一つ例文を見てみよう。

4) 我写给校长一封信。この文を述語論理式で書くと、

4')



となる。まず、

定義の「(1)「動作主」(A)と「与格」(B)が存在する。」を詳しく見ると、「動作主」(A)が“ α ”であり、「与格」(B)が“ β ”である。

定義の「(2)「動作主」(A)が与え、「与格」(B)が受け取る「対象物」(C)がある。」については『「動作主」(A)が与え』が関数“写'”の第一項の“我”である。『「与格」(B)が受け取る』が関数“到'”の第二項の“校长”である。『「対象物」(C)』が関数“写'”の第二項の“信”である。

定義の「(3) A は能動的に C を A から B に移転させる。」については「能動的に」はこの論理式の「 α が β に γ をする」ことである。「A から B に移転」は「関数“写'”の第一項の“我”から関数“到'”の第二項の“校长”のところに移転する。」ことを示す。「させる」は「関数“有'”の第二項の“一封”が関数“到'”の第一項のところにあらわれている」ことである。つまり、「“信”が私のところから行く。」のである。ここでは“一封”の表す連鎖関係が「させる」ことを表している。ここでは、“写'”は「授与」類では

ないが、“送”と同じように分析できる。

1.1.2 S1 における「授与」を表さない動詞

Da 類動詞には「授与」の意味を含んでいないものがある。例えば、“写、留、搵、舀”などである。しかし、これらの動詞は S1 に出現すると、文全体が「授与」の意味を表すことになる。例えば、

- 5) 他写给校长一封信。
(彼は校長に手紙を一通書いた。)
- 6) 他留给小王一个坐位。
(彼は王さんに座席を一つ取っておいた。)
- 7) 他搵给我一块鱼。
(彼は私に魚を一枚挟んでくれた。)
- 8) 他舀给我一勺酱油。
(彼は私にしょうゆスプーンをすくってくれた。)

1.2 S2 : Ms+D+M+給+M'

1.2.1 S2 における「取得」類動詞

すべての「授与」類動詞は S2 に出現しうる。つまり、S1 は S2 に変換しうる (朱 1979 : 154)。例えば、

- 9) 他寄给老张一个包裹。→他寄了一个包裹给老张。

この二つの文の意味が同じである。但し、自然焦点になる成分が異なることから、同じ論理式で書ける。

～ニ オクル～ガ ～ヲ アル ～ガ 一ツ 到ル ～ガ ～ニ
9') 給' {他, 老张, 寄' (他, 包裹) & 有' (包裹, 一个) & 到' (一个, 老张) }

(3) 「取得者」(A') が能動的に「対象物」(C') を「喪失者」(B') から「取得者」(A') に移転させる。

次に、論理式 10') と対照しながら、この定義が論理式で十分に表現されているかどうかを考察する。

まず、定義の (1) の「取得者」(A') は“ α ”であり、「喪失者」(B') は“ β ”である。

次に、定義の (2) の『「取得者」(A') が取得し』が関数“ λ ”の第一項の“他”が表す。『「喪失者」(B') が失う』は関数“ λ ”の第二項の“ ϕ ”が示している。『「対象物」(C')』は関数“ λ ”の第三項の“位子”である。最後に、定義の (3) の「能動的に」はこの論理式の「 α が β に γ をする」ことである。「喪失者」(B') から「取得者」(A') に移転は関数“ λ ”の第二項の“ ϕ ”から関数“ λ ”の第二項の“我”のところに移転することである。「させる」は関数“有”の第二項の“一个”が関数“ λ ”の第一項のところにも現れることで示される。つまり、“位子”が「彼から私のところに行く」のである。ここの「私」は「取得者」(A') ではなくて、正確には「与格」(D) であると考えればよい。したがって、朱徳熙の「取得」に関する定義は論理式に適合していない。適合させるためには定義の 3 番目の「取得者」(A') が能動的に「対象物」(C') を「喪失者」(B') から「取得者」(A') に移転させる」の部分で「取得者」(A') が能動的に「対象物」(C') を「喪失者」(B') から「与格」(D) に移転させる」に変えればよいと考えられる。

したがって、「取得」も「動作主」から「与格」への「授与」である。もっと例を見ておこう。

11) 我买了他家一所房子。

この文を論理式で表記すると、次のようになる。

なお“給”は 7) の文の表面に現れていないので“GEI”と表記する。

～ニ カウ ～ガ ～カラ ～ヲ アリ ～ガ
 11') GEI' {我, 我, 买' (我, 他家, 房子) &有' (房子, 一
 ～一軒 到ル ～ガ ～ニ
 所) &到' (一所, 我) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“GEI' {我, 我, ……}”が「私が私に何かをする」を、“买' (我, 他家, 房子)”が「私が彼のうちから家を買う」を、“有' (房子, 一所)”が「家が一軒ある」を、“到' (一所, 我)”が「一軒が私に到る」を表している。この文も「対象物」(“房子”)が「喪失者」(“他家”)から「与格」(“我”)に移転することを表している。

12) 他偷了人家一把斧子。この文を論理式で表記してみよう。

～ニ ヌスミ ～ガ ～カラ ～ヲ アリ ～ガ
 12') GEI' {他, 他, 偷' (他, 人家, 斧子) &有' (斧子, 一丁 到ル
 ～ガ ～ニ
 一把) &到' (一把, 他) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“GEI' {他, 他, ……}”が「彼が彼に何かをする」を、“偷' (他, 人家, 斧子)”が「彼が他人から斧を盗む」を、“有' (斧子, 一把)”が「斧が一丁ある」を、“到' (一把, 他)”が「一丁が彼に到る」を表している。この文も「対象物」(“斧子”)が「喪失者」(“人家”)から「与格」(“他”)に移転することを表している。

13) 他收了我五块钱。

この文を述語論理式で表記する。

～ニ 徴収スル ～ガ ～カラ ～ヲ アリ ～ガ
 13') GEI' {他, 他, 收' (他, 我, 钱) & 有' (钱,
 五元 到ル ～ガ ～ニ
 五块) & 到' (五块, 他) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“GEI' {他, 他, ……}”が「彼が彼に何かをする」を、“收' (他, 我, 钱)”が「彼が私からお金を徴収する」を、“有' (钱, 五块)”が「お金が五元ある」を、“到' (五块, 他)”が「五元が彼に到る」を表している。この文も「対象物」(“钱”)が「喪失者」(“我”)から「与格」(“他”)に移転することを表している。

1.2.2 “借 a”と“借 b”の同形異義性

“借 a”と“借 b”は同形異類である(朱 1979: 156)。例えば、
 (14) 张三借一本书给李四。

S2 における動詞は Da も Db もなれるから、この文における“借”は“借 a”と“借 b”の二つの意味を表すことができる。まず、“借”は“借 a”になると、「授与」の意味を表す。つまり、“张三把他的书借给李四。”に変換することができる。論理式で表記すると、次のようになる。

～ニ カス ～ガ ～ニ ～ヲ ナイモツ ～ガ
 (14') 给' {张三, 李四, 借' (张三, 李四, 书) & -有' (张三,
 ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
 书) & 到' (书, 李四) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“给' {张三, 李四, ……}”が「張三が李四に何かをする」を、“借' (张三, 李四, 书)”が「張三が李四に本を貸す」を、“-有' (张三, 书)”が「張三が本を持たない」を、“到' (书, 李四)”が「本が李四に到

る」を表している。この論理式では関数“借’”の第二項“李四”が「本の至るところ」であるから、この文は「授与」を表す。

そして、“借’”は“借b”になると、「取得」の意味を表すことになる。論理式で表記すると、次の(14’’)になる。

～ニ カリル ～ガ ～カラ ～ヲ
 (14’’) 給’ {张三, 李四, 借’ (张三, ϕ, 书) &
 ナイモツ ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
 -有’ (ϕ, 书) &到’ (书, 李四) }
 スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここでは、“給’ {张三, 李四, ……}”が「張三が李四に何かをする」を、“借’ (张三, ϕ, 书)”が「張三が誰かから本を借りる」を、“-有’ (ϕ, 书)”が「誰かが本を持たない」を、“到’ (书, 李四)”が「本が李四に到る」を表している。この論理式では関数“借’”の第二項“ϕ”と“本”の関係が「誰かが本を持たなくさせる」、つまり、「張三が誰かから本を借りた」を表す。この文は「取得」を表す。

(14’) と (14’’) の述語論理式から見ると、関数“借’”の第二項が違うだけで、「授与」と「取得」の意味の違いがでる。

1.2.3 文型 S2 に出現できる動詞 Dc

文型 S2 に出現できる動詞は前述の Da と Db だけではなく、Dc もある。Dc とは「授与」も [取得] も表さないで、S2 に用いられる動詞である。例えば、

- (15) 我打了一件毛衣给他。
 (私は彼にセーターを一着編んだ。)
- (16) 你沏杯茶给客人。
 (あなたはお客さんにお茶を入れて。)

(17) 我刻了块图章给李老师。

(私は李先生に印章を刻んだ。)

これらの文における動詞“打”、“沏”、“刻”は「授与」も「取得」も表さず、「製作」を表す動詞である。

1.2.4 三種類の文型 S2

先の分析によると、文型 S2 は三種類に分けられる。

- 1) S2 (Da) : 我送一件毛衣给他。
- 2) S2 (Db) : 我买一件毛衣给他。
- 3) S2 (Dc) : 我打一件毛衣给他。

ここでは、S2 (Da) が「授与」を表し、S2 (Db) が「取得」を表し、S2 (Dc) が「授与」も「取得」も表さない。S2 (Da) における動詞“送”と“给”は同一のプロセスである。しかし、S2 (Db) における動詞“买”と“给”は分離したプロセスであり、S2 (Dc) における動詞“打”と“给”も分離したプロセスである。したがって、S2 (Da) と S2 (Db)、S2 (Dc) が対立している。さらに、その対立する関係は S2 (Da) と S2 (Db+c) との対立とも見える。つまり、「授与」を表す動詞と「授与」を表さない動詞の対立関係である。

1.3 S3 : Ms+给+M'+D+M

1.3.1 「授与」を表す“给 d”と「代替」を表す前置詞“给 p”

S3 を分析する前に、“给 d”と“给 p”を区別する必要があると考えられる。(朱 1979 : 158) “给 d”の文は「授与」を表し、“给 p”は「代替」を表す。例えば、

A. (18) 大夫给病人打针。(医者が患者に注射する。)

この文を論理式で表記すると、次のようになる。

ここでは、“给 p’ {我, 他, ……}”が「私は彼にかわって何かをする」を、“买’ (我, 车)”が「私が車を買う」を、“有’ (车, 一辆)”が「車が一台ある」を表している。

注意すべきことは、(19’)はS2“我买一辆车给他。”に変換できる。しかし、「代替」を表す(19’)は“我买一辆车给他。”とは言えない。もっと例を見てみよう。

- (20) 我给你娶个媳妇。
 (21) 你给客人沏杯茶。
 (22) 我给你画张画儿。

文の(20)から(22)における“给”はいずれも「授与」と「代替」を表している。文の(19)のように、「授与」を表す場合、S2に変換できるが、「代替」を表す場合、S2に変換できない。したがって、「代替」の意味は“给”の前置詞性が賦与したものではない。(朱 1979 : 159)

1.3.2 S3 に用いられる動詞 Db と Dc

S3 に用いられる動詞は主に Db と Dc である。例えば、

1) S3 (Db)

我给他买了一辆车。

我给你娶个媳妇。

我给你抢了一本。

これらの文は「授与」、「代替」あるいは「取得」の意味を表している。

2) S3 (Dc)

我给你沏杯茶。

我给你画张画儿。

我给你打件毛衣。

これらの文は「授与」あるいは「代替」を表している。

3) S3 (Da)

うになる。“有’(書, 几本)”が“有’(書, [論理形式] 数量)&有’([論理形式] 数量, 几本)”になり、“有’(几本, 好)”が“有’(几本, [論理形式] 程度)&有’([論理形式] 程度, 好)”になる。これを縮約すると、“有’(書, 几本) &有’(几本, 好)”になる。次の(23’’)と(23’’’)も縮約して書く。

(23’’) “我替他从别人那里借了好几本书。”の意味を表す。この文を論理式で表記すると、次のようになる。

ニカワリ カリル ~ガ~カラ~ヲ 到ル ~ガ ~ニ アル ~ガ 数冊
 給’ {我, 他, 借’ (我, φ, 書) &到’ (書, 我) &有’ (書, 几本)
 モツ ~ガ 大變トイウ程度
 &有’ (几本, 好) }
 スル ~ガ ~ニカワリ ~コトヲ

ここでは、“給’ {我, 他, ……}”が「私は彼にかわって何かをする」を、“借’ (我, φ, 書)”が「私が誰かから本を借りる」を、“到’ (書, 我)”が「本が私にいたる」を、“有’ (書, 几本)”が「本が数冊ある」を、“有’(几本, 好)”が「数冊が大變という程度を持つ」を、全体は「私は彼にかわってたくさんの本を借りた」を表している。この文における“借”は「取得」を表すから、“借b”である。つまり、“給”は前置詞である。

(23’’’) “我从别人那里借了好几本书给他。”の意味を表す。この文を述語論理式で表記すると、次のようになる。

ニ カリル ~ガ~カラ~ヲ 到ル ~ガ ~ニ アル ~ガ 数冊
 給’ {我, 他, 借’ (我, φ, 書) &到’ (書, 他) &有’ (書, 几本)
 モツ ~ガ 大變トイウ程度
 &有’ (几本, 好) }
 スル ~ガ ~ニカワリ ~コトヲ

ここでは、“給”〔我，他，……〕が「私は彼に何かをする」を、“借”（我， ϕ ，书）が「私が誰かから本を借りる」を、“到”（书，他）が「本が彼にいたる」を、“有”（书，几本）が「本が数冊ある」を、“有”（几本，好）が「数冊が大変という程度を持つ」を、全体が「私は他人から彼にたくさんの本を借りた」を表している。この文における“借”は「取得」を表すから、“借b”である。つまり、“給”は動詞である。

1.3.4 Da、Db+c と S3 の関係

上の分析からわかるのは、

- A. Da は S1 に現れるが、Db+c は S1 に現れない。例えば、
 Da：我推荐给你一本书。（私はあなたに本を一冊推薦する。）
 Db+c：*我沏给他一杯茶。
- B. Da と Db+c はいずれも S2 に現れるが、S2 (Da) と S2 (Db+c) は対立する。例えば、S2(Da)の“我送一件毛衣给他。”における“送”と“给”は同一のプロセスであるが、S2(Db+c)の“我打一件毛衣给他。”における“打”と“给”は分離したプロセスである。したがって、両者が対立している。
- C. Da+c は S3 に現れ、Da は一般には S3 に現れない。しかし、ここでは例外がある。一部分の Da 類動詞は S3 に現れるからである。例えば、

我给他寄了个包裹。（私は彼に包むを郵送した。）
 我给学校汇了一百块钱。（私は学校に為替で百元を送った。）
 你给客人点菜。（あなたはお客さんに料理をはさんであげてください。）
 我给小李留个座位。（私は李さんに席を取っておいた。）
 我给他写了封信。（私は彼に手紙を一通書いた。）

これらの動詞はすべて Da 類である。

以上の文は S1 に変換できる。変換すると、次のようになる。

我寄给他一个包裹。
 我汇给学校一百块钱。

我留给小李一个座位。

さらに、以上の文は S2 に変換できる。変換すると、次のようになる。

我寄了个包裹给他。

我汇了一百块钱给学校。

我留了一个座位给小李。

“寄”、“汇”、“留”などの動詞は S1 と S2 に現れるから、Da と Db+c を兼ねる。これらの動詞は－[取得]なので、Db ではない。Db を縮小して、Da と Dc を兼ねるとする。それを Da/c と表記する。しかし、Da/c では Da が「授与」を表し、Dc が－「授与」を表すから、相互に矛盾している。

1.3.5 “写”類動詞と“寄”類動詞

1.3.5.1 “写”類動詞と“寄”類動詞の分類

Da/c 類の動詞の意味について分析しよう。Da/c 類の動詞は“寄、汇、揀、舀、捎、留、带、写、打（电话）、换、发、推荐、介绍”などである。これを分けて、二類に分ける。第一類は“写、揀、舀、留”など「授与」を表さない動詞、これを“写”類動詞と呼ぶ。第二類は“寄、汇、发、推荐、介绍”など「授与」を表す動詞、これを“寄”類動詞と呼ぶ。

まず、“写”類について分析しよう。“写”類は「授与」も「取得」も表せない。Dc となる。故に、“写”+対象格“春联”の時、“我写了一幅春联给他。”[S2(Dc)]と言えるが、“我写给他一幅春联”[*S1(Dc)]と言えない。しかし、“写”+対象格“信”の時、「前提」(presuppose)として、「与格」(受者)が存在する。この場合、“写”は「授与」の意味を獲得する。そこで、Dc が Da になる。その結果、“我写给他好几封信。”[S1 (Da)]と言える。しかし、“写信”の“写”が「授与」を表さないこともある。例えば、“他临走的时候写了封信给我，[S2(Dc)]让我转交给你。”この文における“写”は“书写”の意で、Dc である。(朱 1979 : 162) この文の“给我”は言わば「中継」の「与格」であり、文末の“给你”が「着点」の「与格」である。

以上のことから、“写信”の“写”は+「授与」(Da)でも、-「授与」(Dc)でもある。これが意味の「不確定性」(indeterminancy)を示している。意味から解釈すると、“春联”を書くとき、必ずしも他人に渡すわけではない。しかし“信”を書くとき、必ず誰かに書く。したがって、“写春联”と“写信”は同じものではない。つまり、“写信”の構造は[動作]+[対象格]である。その[対象格]に[固有性]の[授与]があると考えられる。“写春联”の構造も[動作]+[対象格]であるが、その[対象格]は[非固有性]の[授与]があると考えられる。

ここで意味の「不確定性」をまとめると、次のように説明できる。

- 1) 典型的な Da 類動詞“卖、送、赏、嫁”の単語の意味の中の意味成分「授与」は[固有性](intrinsic)である。
- 2) “写”の単語の意味の中の意味成分[授与]は[非固有性]であり、出現する時もしない時もある。
- 3) “兼、舀、留”などの動詞そのものにも[授与]の意味はない。しかし、“兼菜、舀汤、留座位”といった発話の場合は、[授与]の意味を獲得する可能性がある。(朱 1979 : 162) 例えば、

- a) 给我兼了块鱼
- b) 给我舀了一碗汤
- c) 给我留一个座位

a) を例として、文の成立の過程を説明する。

まず、動詞“兼”を選択して、そして、動詞“兼”が「対象格」“一块鱼”を選択する。そうすると、“兼一块鱼”が[動作]+[対象格]の構造になる。次に、動作主“他”を選択すると、“他兼一块鱼”になり、[動作主格]+[動作]+[対象格]の構造になる。[対象格]“一块鱼”の着点(goal)は動作主“他”とそれ以外、例えば、“客人”がある。そして、動作主の場合は“他给我兼一块鱼”となり、“客人”の場合は、“他给客人兼一块鱼”とな

る。最後に、「着点」を表す“给我”は動詞“兼”との格関係は「与格」である。

1.3.5.2 “写”類動詞と“寄”類動詞とは異なる

上述の動詞は動詞そのものの単語の意味の中に、[授与]の意味が含まれているようである。しかし、この類の動詞をいくつかの文型に入れて観察すると、単語の意味の「不確定性」を見ることが出来る。この点を説明するために、まず“Da/c”類の動詞の単語の意味の問題と深くかかわる文法現象、つまり、S4のDa類動詞に対する反応を分析してみよう。

朱(1979:162)によると、Da類の動詞の大部分はS4に出現する。しかし、少数だが、S4に出現しないものもある。S4に出現しないDa類動詞をDa1とすると、1) Da1は少数の例外を除き、S3に出現する。例えば、

S4	S3
* 寄我一个包裹	<u>给我</u> 寄了个包裹
* 兼我一块鱼	<u>给我</u> 兼了块鱼
* 留我一个座位	<u>给我</u> 留一个座位
* 写我一封信	<u>给我</u> 写封信

ここでは、“寄我一个包裹”と言えないが、“寄给我一个包裹”と言える。故に、“*寄我一个包裹”の“寄”の後に“给”は潜在していない。したがって、S4の“寄”、“兼”、“留”、“写”、“打”、“汇”、“带”の後には“给”がかくれていない。つまり、[授与]の意味は「非固有性」である。

2) S4に出現するDa類動詞をDa2とすると、Da2は一般にはS2に出現しない(朱1979:163)。例えば、

S4	S3
送我一本书(私に本を一冊プレゼントする)	*给我送一本书
卖我一所房子(私に部屋を一軒売った)	*给我卖一所房子

还我五块钱（私に五元を返した）	*给我还五块钱
递我一只笔（私にペンを渡してくれた）	*给我递一只笔
赔我一本新的（私に新しいのを弁償する）	*给我赔一本新的
赏了他一两银子（彼にお金をほうびにやる）	*给他赏了一两银子
输我一盘棋（私に将棋を一回負ける）	*给我输一盘棋

ここでは、S4 の“送我一本书” が成立するのに、S3 の“*给我送一本书” が「私に本を一冊プレゼントする」の意味にならない。それは S4 の“送”の後に“给”が潜在していると仮定できるからである。すると、S3 は“给我送（给）一本书”となって、前の“给”の表す[授与]の意味と後の“给”の表す[授与]の意味が衝突する。したがって、この後の“给”の表す[授与]は「固有性」の特徴を持っている。

まとめて言えば、ここで検討した Da1 類は Da/c と重なる。内包にこだわらず、外延を見ると、この二類の関係は $Da1 \approx Da/c$ 。同様に、Da2 と Da/c の関係は $Da2 \approx Da - Da/c$ である（朱 1979:163）。

3) Da 類動詞の S1、S3、S4 の三種の文型中の分布を次の表で考察する。

Dc は Da と比較するために入れた。Dc を“炒”類と呼ぶことにする。以下朱（1979）に従って説明する。

表 1

			S1	S3	S4
	Da-Da/c	“卖” 類	+	-	+
Da	Da/c \approx Da1	“寄” 類	+	+	-
		“写” 類	+	+	-
Dc		“炒” 類	-	+	-

表 1 から見ると、“卖”類と“炒”類は「単語の意味」上対立している。“卖”類は[授与]を表し、“炒”類は[授与]を表さない。意味上の対応

に依じて、この二類の動詞の S1、S3、S4 における文形式上の分布も対立している。前の 2.3.5.1 で“卖”類が「単語の意味」上 [授与] を表し、“写”類は [授与] を表さないと述べた。そうであるならば、この二類の動詞の三種の文型における文形式上の分布も対立しているべきである。具体的に言えば、“写”類は [授与] を表さないから、“炒”類と同じで、S1 には出現しないはずである。しかし、表では S1 に出現している。“寄”類は [授与] を表すので、“卖”類と同様に S4 に出現し、S3 に出現すべきでないはずである。しかし、表では S4 には出現せず、S3 に出現している。しかし、実際には“寄”類と“写”類の分布は完全に等しい。この数類の動詞の分布上の特徴には必ずや意味上の原因があるはずである。2.3.5.1 において、“卖”類の動詞の「単語の意味」の中で、意味成分 [授与] は「固有性」であった。「固有性」があるとは、動詞“卖”について言えば、「売るプロセス」が「授与のプロセス」そのもので、両者は渾然一体となって、分離できないものであることを指す。

これに対して、“寄”類の動詞の「単語の意味」の中で、意味成分 [授与] は「固有性」ではない。[授与] の意味は出現したり、しなかったりする。[授与] の意味が出現しない時には、その動詞の実際の意味は全体の意味から [授与] の意味を取り去った後の部分である。例えば、“张三给李四寄了个包裹。”において、動詞“寄”は「小包を送る“把包裹寄出去”」の部分の意味のみを担うようであり、[授与]（つまり、小包が張三のところから李四のところへ移動する）の部分の意味は、動詞“给”によって、担われているのである。詳しく言うと、“张三寄了个包裹”の文型意味が [授与] を表すかどうかを判断しにくいのが、“给李四”の“给”の単語の意味は [授与] を表すから、この二部分を合成すると、全文“张三给李四寄了个包裹。”は [授与] を表すことになる。

1.2.4 において、S2 (Dc) の中で、Dc と“给”が二つの分離したプロセスを表すと指摘した。例えば、“我打了一件毛衣给他。”で“打”と“给”は別々の出来事であり、それは“张三给李四寄了个包裹。”において、“寄”と“给”が別々の分離したできごとであるのと同じである（朱 1979:164-

165)。更に、朱（1979）に従って説明を続ける。

以上の分析から、もとの説明、つまり“写”類の動詞は〔授与〕を表さず、“寄”類の動詞は〔授与〕を表すという説はなりたないことが分かる。どちらも一面しか考察しておらず、Da/c 類動詞の「意味上の不確定性」を考えていなかったからである。

表において、S1 の列は〔授与〕の意味を含む。文型意味の対立から見ると、“卖、寄、写”の三類と〔授与〕の意味を含まない“炒”類の間の対立を表していた。S3 の列は〔授与〕の意味を含まない。単語の意味の対立から見ると、“寄、写、炒”の三類と〔授与〕の意味を含む“卖”類の間の対立を表している。S4 の列の正負の記号は S3 と反対で、したがって、“寄、写、炒”三類と“卖”類の対立を表している。換言すると、「S3 と S4 はそれぞれ正反両面から同一の事実、つまり、“卖”類は〔授与〕の意を含み、“寄、写、炒”三類は〔授与〕の意味を含まない」ことを表している。以上のことから、前文の議論において、S1、S2、S3 のみ立論し、S4 を無視すれば、全文と同じ結論を得ることができる。

S4 が要求するのは〔授与〕の意味を含む動詞である。S1 が要求するのも〔授与〕の意を含む動詞である。しかし、S4 と S1 の文型のこれらの動詞に対する要求には強弱のちがいがあある。S4 の要求は強く、〔授与〕の意味が単語の意味に固有の動詞、つまり、“卖”類のみを受け入れる。S1 の要求はやや弱く、“卖”類以外に“寄”類や“写”類といった、時に〔授与〕の意味を含む動詞をも受け入れる。1.2 では、S2(Da)、S2(Db)、S2(Dc)のみを論じ、S2(Da/c)を論じなかった。Da/c が S2 に現れた時には、それを Da とも見なせるし、また Dc とも見なすことができる。1.3.5.1 において、“他写了封信给我”は S2(Da)でもあり、S2(Dc)でもあると指摘した。この二類の状況は意味がちがうが、それは“写”類の動詞について述べたものであった。実際には、“寄”類の動詞も同じである。例えば、“我寄了个包裹给他”は S2(Da)と見なせば、その文の意味は“我寄给他一个包裹”と同じで、“寄”と〔授与〕は分離できず、一個の単一のプロセスである。もしも、S2(Dc)と見なせば、“寄”は Dc として、“寄出去”（何を郵送する）だけを表し、〔授

与]の意味を含まない。つまり、“寄”と“给”は分離した別のプロセスを表すのである（朱 1979:165-166）。

1.4 S4 : Ms+D+M' +M

1.4.1 S4に現れる動詞

S4に現れる動詞は次の三部分である。詳しく言うと、次のようである。

- 1) “卖”類動詞。つまり、“Da-Da/c”である。この動詞で構成されたS4は[授与]を表す。
- 2) Db類動詞、つまり、「取得」を表す動詞である。この動詞で構成されたS4は[取得]を表す。例えば、
 - (24) 他一共收了我二十块钱。(彼は私から20元を受け取った。)
 - (25) 她偷了人家一把斧子。(彼女は他人から斧を盗んだ。)
 - (26) 我买了他家一所房子。(私は彼から家を一軒買った。)
 - (27) 敌人抢了我们一辆卡车。(敵は私たちからトラックを奪った。)

- 3) その他の動詞 例えば、

- (28) 我欠他五块钱。(私は彼に五元を返してない。)
- (29) 我问你一句话。(私は君に聞く。)
- (30) 我们叫他老李。(私たちは彼を李さんと呼ぶ。)
- (31) 我该他五块钱。(私は彼に五元借りがある。)

そこで以下では1)だけを論じることとする。S4をあらためて次のように定義する、「“卖”類動詞で作られた二重目的語文型である。」(朱 1979:166-167)

1.4.2 S4がS1に変換する。

すべてのS4はS1に変換できる。例えば、

- (32) 我卖你一本。→ 我卖给你一本。
- (33) 我送你一盆花儿。→ 我送给你一盆花儿。

(34) 你递我一只笔。→ 你递给我一只笔。

(35) 她还了我五块钱。→ 她还给我五块钱。

この変換は可逆的ではない。というのは“卖”類の動詞の少数だが、“扔、踢”などはS4には出現しないからである。

1.1で、S1を用いて、Da類の動詞を規定した。この定義によれば、“给”（動詞）そのものがDaからはじかれてしまう。それは不合理である。この問題を解決するためには、S4とS1を統一して、統一文型と見なすことが必要である。具体的には、“给”を持たないS4を“给”を持つS1の圧縮形式と考えるのである。“给”が現れるか否かは動詞の類別によって決定される。動詞が“卖”類動詞であれば、「随意的」(optional)である。“寄”類動詞であれば、“给”の出現は「義務的」(obligatory)である。この考え方によれば、「给+M'+M」の形式を「卖+给+M'+M」や「送+给+M'+M」と同じ「给+给+M'+M」であるとみなすのである。かくして動詞“给”はわれわれがDa類動詞に下した定義にかなうのである。

もちろん、「给+给+M'+M」の文は実際には存在しない。しかし、これは連続して出現した“给”が「融合」して、一つになったものであり、“了+了→了”や“的+的→的”と同類の現象である。この動詞“给”はS2では現れる。“你给钱给他。”である。S2とS1の間には、変換関係があるので、理論上は“你给钱给他。”は“你给他钱。”と変換できる。これは前に述べた“给+M'+M”を“给+给+M'+M”と解釈したのと平行している（朱1979:167-168）。

1.5 まとめ

本文では、“给”構文のS1からS4の文型の基本的な統語的意味的説明をした。

まず、S2について“他寄了个包裹给我。”はS2であるが、この文の“给”は連動式動詞文の第二の述語である。したがって、品詞は動詞である。意味上は“包裹”の「着点」(goal)の意を含む「～に与える」という動作で

ある。また語用論的には、“给我”がこの文の「自然焦点」であることを表す。

第二に S3 について、“他给我寄了个包裹。”は S3 で、この文の“給”は動詞“寄”に前置された状況語の一部である。したがって、通常は品詞は前置詞とされるが、朱（1979）は「動詞“寄”と一体となったプロセスを表す」という意味役割を重視し、動詞と解釈したのであろう。そこで、意味的には「動作」よりも「～に（着点）」を表す「与格」を表示する「外延」としての前置詞に近い。語用論的には、“个包裹”がこの文の「自然焦点」であることを表す。

第三は S1 である。S1 は“他寄给我一个包裹。”であるが、この文の“給”は動詞“寄给”の一部分として組み込まれている。したがって、形式上は独立した品詞を構成できない形態素（語素）である。意味はすでに「動作」は表示せず、「着点」を表す「内包」としての「与格表示記号」である。

第四は S4 である。S4 は“*他寄我一个包裹。”が成立しないので、“我送他一本书。”を考えることにする。この文は“給”を持たないので S1 から S3 までの文と形式的には関係がないが、意味上 S1 と密接な関係があるので取り上げている。朱（1979 : 168）は、「S4 は S1 の“緊縮形式”であり、……」と述べているが、その“緊縮”の意味するところを詳しく考えた。

S1 では、「内包」である「～に」の意味を表す“給”が形式上存在していたが、S4 では“給”が形式上存在しない。しかし、「内包」の「～に」の意味は“他”という文成分の位置が表示している。つまり形式上「空虚化」された「内包」であると言える。

ここではさらに S2 と S3 の関係、S3 と S1 の関係、S1 と S4 の関係について論じた。

まず、S2 から S3 への関係は形式的には「動詞」から「(擬似) 前置詞」(Quasi preposition) への、意味的には「動作」から「非動作」への、語用論的には「自然焦点」の“给我”から“个包裹”への移動と考えることができる。

第二に、S3 から S1 への変換は形式上は「(擬似) 前置詞」から「形態素

（語素）」への、意味的には「与格」（～に）の意を表す「（擬似）前置詞」、つまり、「外延（extension）」から動詞“寄給”の一部として「与格」の意を表す「形態素」、つまり「擬似内包」への移動と考える。

第三に、S1 から S4 への変換は、形式的には“給”という明示形態素から“送+φ”という形式の「暗示形態素」、つまり、「φ形態素」への、意味的には「～に」の意味を表す“給”の持つ「擬似内包」から、“他”の位置のみによって表示される「内包（intension）」への移動と解することができる。

したがって、おおまかに述べると、S2 から S3 へは「自然焦点移動」、S3 から S1 は「外延」から「内包」へという「指示移動」、S1 から S4 は“給”の「明示」から「暗示」という「形式移動」である。この文型の移動を“給”の立場から言えば、S2 から S3 へは「動作性の消失」、S3 から S1 へは「品詞資格の消失」、S1 から S4 へは「形態の消失」ということになる。

この変換の過程を話者や聞き手の立場から言えば、「分析的」表現から「総合的」表現への移行と捕らえることもできる。したがって、S4 は聞き手の負担を重くする文型であるが、その論理構造は、S1 から S4 まで、“給”を関数とする三項を持つ論理式で表示される。

参考文献

- [1] 吕叔湘 1984“汉语语法分析问题”，《汉语语法论文集》北京：商务印书馆，50-53页。
- [2] 马庆株 1983“现代汉语的双宾语构造”，《语言学论丛》第10辑，166-196页。
- [3] 满在江 2003“生成语法理论与汉语双宾语结构”，《现代外语》第3期，232-240页。
- [4] 齐沪扬 1995“有关介词‘给’的支配成份省略的问题”，《上海师范大学学报》第4期，18-23页。
- [5] 桥本万太郎 1987“汉语被动式的历史、区域发展”，《中国语文》第1期，36-37页。
- [6] 沈家煊 1999“‘在’字句和‘给’字句”，《中国语文》第2期，2-8页。
- [7] 石毓智 2004“兼表被动和处置的‘给’的语法”，《世界汉语教学》第3期，15-26页。
- [8] 孙汝建 1999“三个平面理论在语法教学中的运用”，《深圳教育学院学报》，第2期。
- [9] 钟隆林 1959“略论现代汉语中的‘给’字”，《武汉大学学报》（人文科学版），第10期，63-68页。
- [10] 朱斌 1998“真准谓宾动词”，《汉语学习》第6期，28-32页。
- [11] 朱德熙 1979“与动词‘给’相关的句法问题”，《现代汉语语法研究》，151-168页。
- [12] 朱德熙 1982《语法讲义》，商务印书馆。
- [13] 佐佐木勋人 2002“由给予动词构成的处置句”，《语言教学与研究》，第5期，235-245页。
- [14] 刘月华 2001 改定版《实用现代汉语语法》，商务印书馆。
- [15] 陆俭明、沈阳 2001《汉语和汉语研究十五讲》北京大学出版社。
- [16] 吕叔湘 1999《现代汉语八百词》，商务印书馆。
- [17] 曲阜師範大学 1992《现代汉语常用虚词词典》，浙江教育出版社。

[18] 张谊生 2002 《现代汉语虚词》华东师范大学出版社。

[19] 张谊生 2002 《助词与相关格式》安徽教育出版社。

[20] 张谊生 2000 《现代汉语副词研究》，上海：学林出版社。

[21] 赵元任 1968 《汉语口语语法》，吕叔湘译，商务印书馆。